

「床屋発祥の地記念碑」建立20周年

亀山八幡宮で毛髪供養祭

下関



「髪落とし」の儀式に臨む組合員ら=19日、下関市

の儀式を特別に行った。5、6の両月、同組合22支部675店舗で集められた約11万人分の客の毛髪とともに供え、日ごろの感謝の気持ちを表した。吉永理事長は「理容と美容の垣根がなく

なる中、良い店経営をし、感謝の気持ちで客に対応していきたい」と話していた。鎌倉時代に京都から下関に来た武士の親子が、朝鮮半島の新羅人から髪結いの技術を学んで同八幡宮近くに店を開き、その店に床の間があったことから「床屋の屋号で呼ばれるようになったという。全国にこの呼び名が広まっていったため、下関が「床屋発祥の地」とされている。

下関市中の町の亀山八幡宮にある「床屋発祥の地記念碑」の建立20周年を記念した毛髪供養祭が19日、同八幡宮で開かれた。県理容生活衛生同業組合（吉永和義理事長）の主催で、組合員や業界関係者ら約70人が集まった。

記念碑は県内有志の呼び掛けで1995年7月17日に建立。供養祭は例年秋に行っているが、今回は節目の年を記念し、かみしもを身にかけた同市内の組合員3人が成人男女と男子小学生の髪をその場で切って神殿に奉納する「髪落とし」

「床屋発祥の地」毛髪供養

記念碑建立20周年祝う



「髪落としの儀」が行われた供養祭

「床屋」という呼び名の発祥の地とされる下関市で19日、記念碑建立20周年を記念した毛髪供養祭が営まれた。古式にのっとり髪を切って奉納する「髪落としの儀」も再現され、関係者ら約70人が理容業の歴史に思

いははせた。起源は鎌倉時代。京都御所の警護につく北面の武士だった藤原基晴が三男とともに、長門国（現在の下関市）で髪結の技術を学んで開業。店の床の間に、亀山天皇や先祖をまつる祭壇が

あったことが「床屋」の名称の由来とされる。こうした歴史を踏まえ、同市の亀山八幡宮境内には1995年7月、カミソリやくしなどを表現した「床屋発祥の地記念碑」が建てられた。今年が20周年にあたり、県理容生活衛生同業組合が供養祭を主催した。

供養祭では、下関市内の組合員3人がかみしも姿でモデルの髪の一部を切った後、県内の顧客約11万人分の頭髪とともに奉納し、業界の発展を祈願した。吉永和義理事長（63）は「発祥の地であることを誇りに思う。理容と美容の垣根のない時代になったが、今後、お客には感謝の気持ちをもって対応したい」と話した。